

公益財団法人京都市生涯学習振興財団

第1 法人の概要

1 代表者

理事長 松本紘

2 所在地

京都市中京区聚楽廻松下町9番地の2

3 電話番号

075-802-3141

4 ホームページアドレス

<https://asny.ne.jp>

5 設立年月日

昭和56年3月16日

6 基本財産

80,000千円（うち本市出えん額80,000千円、出えん率100.0%）

7 事業目的

京都のもつ歴史と文化を生かした生涯学習事業を推進し、生涯学習の振興を図るとともに、京都市における教育と文化の発展に寄与すること。

8 業務内容

- (1) 講座、講演会及びその他の催しの開催
- (2) 体験活動事業等の実施
- (3) 生涯学習情報の収集及び提供等
- (4) 博物館等における展示事業の実施
- (5) 生涯学習施設における貸館事業
- (6) 生涯学習のための図書及び資料の購入・収集・貸出・返却、参考業務及び読書推進事業の実施
- (7) その他公益目的を達成するために必要な事業

9 所管部局

教育委員会事務局生涯学習部施設運営担当（TEL075-801-8822）

10 役員名等

(1) 理事長

松本紘

(2) 副理事長

榊原吉郎

(3) 専務理事

三宅慎一（財団事務局長・教育委員会事務局生涯学習部担当部長）

(4) 理事

加藤法生、久村剛史、澤田瞳子、染川香澄、武田隆久、谷村仁志、仲田雅博、永田萌、秦英正、
稲田新吾（教育長）

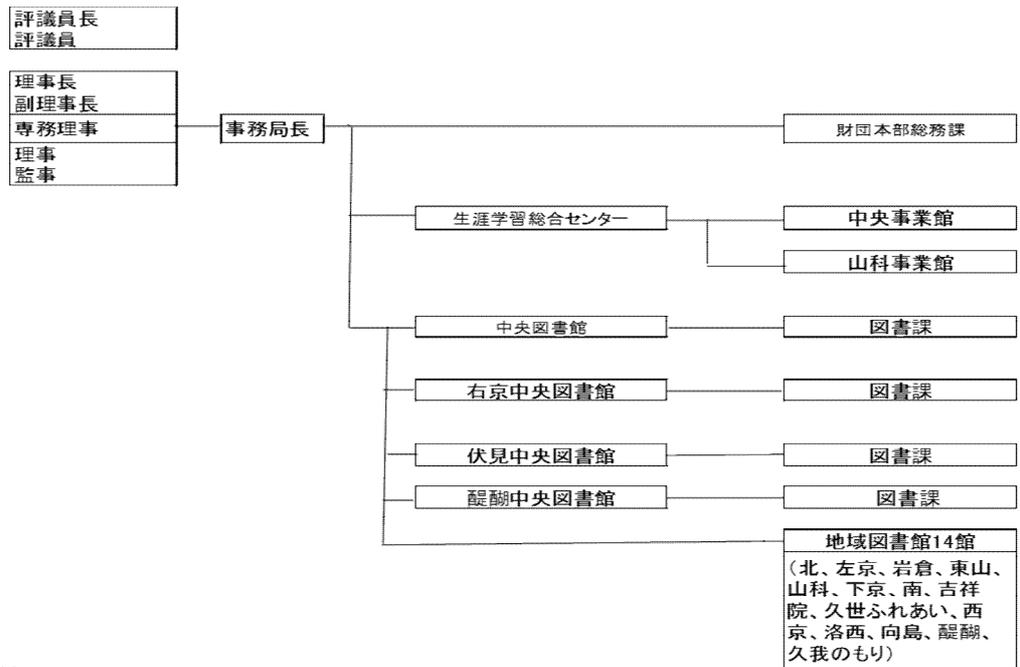
(5) 監事

丹波寛志、樫木章人（教育委員会事務局総務部長）

11 職員数

常勤職員数220名（うち本市派遣職員5人）

12 組織機構



第2 目標及び実績

1 業務面

(1) 目標及び実績

目標1 「多様な生涯学習機会の提供」	
令和5年度の目標	<p>市から受託する講演会のほか上映会などの視聴覚事業に加え自主事業としてセミナー、アトリエ、コンサートなど、アスニーを拠点に全体として令和4年度より回数を増やして実施する。</p> <p>京都への文化庁移転に関連して文化や芸術をテーマとした講座を行うほか、平安京創生館を中心に平安時代からの京都の歴史と文化について情報発信する。また、受講料の収受方法の多様化への対応や、コロナ禍を経た、非来館型のサービス提供方法のひとつである講座のオンライン配信など、引き続き利用者ニーズや社会環境の変化に応じたサービスのあり方を検討する。</p>
令和5年度 の取組結果 (※)	
令和6年度の目標	<p>人生100年時代に向けて市民が生きがいを持って豊かな人生を送るため、生涯学習や学びの機会を創出することが求められている。</p> <p>財団では、講演会や上映会等の市からの受託事業やセミナー・アトリエ・コンサート等の自主事業を、市民ニーズや社会の変化に応じた事業内容とする。</p> <p>特に今年度は、奥深い京都の歴史や文化を少人数でじっくり学べる塾形式の連続講座を新たに開講するとともに、京都市立芸術大学の移転開校を記念した講演会を大学と共催するなど、事業のさらなる充実を図る。</p> <p>「京都市平安京創生館」においては、大河ドラマで平安時代がクローズアップされることもあり、紫式部の生きた平安京の復元模型をはじめ、当時の貴族の暮らしや文化が学べる展示を行い、積極的に情報発信する。</p> <p>また、貸館事業において、利用者の利便性を高めるため、Wi-Fi設備の全館整備などDX化が進められることに伴い、財団においても受講料のキャッシュレス決済利用の拡充など、市民サービスの向上に取り組む。</p>

指標	事業参加者数						(単位：人)	
	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
目標と実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標	実績(※)
		100,000	76,400	130,000	101,600	130,000		135,000

目標2 「豊かな市民生活の実現及び京都市の文化力向上を図る図書館事業の推進」	
令和5年度の目標	<p>新しい生活様式を踏まえ、市民のニーズや読書スタイルの変化に適應できる、誰もが使いやすいユニバーサルな視点を大切に魅力ある図書館づくりに努める。</p> <p>利便性の向上としては、「スマホ図書館カード」の導入のほか、ホームページからの図書館資料の予約が全予約冊数の8割を超えている(令和3年度実績)ことから、多巻本を指定した順に借りられる「シリーズ予約」の導入、スマートフォンでも見やすいレイアウトの構築(バリアフリーの観点から音声読み上げや自動翻訳機能)など、特にホームページからの図書館サービスの利便性向上を図り、その機能の周知に努める。</p> <p>また、令和4年度に導入した、いつでもどこでも利用できる電子書籍サービスの充実を図る。</p>
令和5年度の取組結果(※)	
令和6年度の目標	<p>「第4次京都市子ども読書活動推進計画」の2年間の延長を受け、子どもの本に関する相談や取組で指南役を担う「子どもの本コンシェルジュ」を中心に、学校や児童館、保健所等への出前事業などを通じて子どもの読書環境の充実を図る。また「子育て環境日本一」を目指す京都市の一翼を担う施設として、子育て世代が安心して利用できるよう、絵本コーナーなど子育て支援のためのリニューアルを行い、少子化対策、定住促進にも貢献する。</p> <p>令和5年度に導入した電子書籍の「児童書読み放題パック」は、上記の観点からも有効なため、その活用に努める。また電子書籍は、来館が前提だった図書館サービスを、いつでもどこでも利用できるというメリットがあるだけでなく、図書館利用が困難な方に対する読書バリアフリーの環境を整備するためにも有効であり、積極的に周知し、更なる新規利用者を開拓する。</p> <p>さらに、地域や関係団体とも連携し事業を実施することで、市民に最も身近な生涯学習施設としての役割を果たす。</p>

指標	図書館資料の予約冊数						(単位：千冊)	
	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
目標と実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標	実績(※)
		1,964	2,486	1,974	2,135	1,984		2,125

指標	京・ライブラリーネットの充実による図書館資料の流通点数						(単位：千冊)	
	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
目標と実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	実績(※)
		3,204	3,784	3,207	3,488	3,210		3,470

(2) 事業実績（令和4年度）

ア 生涯学習総合センター（京都アスニー）の事業

a 講座・セミナー等

	事業名	講座数	事業回数	延べ受講者数
自主事業	アスニーセミナー	54	91	9,419
	アスニー・土曜プログラム	1	1	153
	アスニーアトリエ	66	1,096	12,135
	アスニーコース	6	200	4,656
	アスニーコンサート	10	10	1,719
受託事業	アスニー特別講演会 (ゴールデン・エイジ・アカデミー代替事業)	29	29	4,692
	アスニー京都学講座	18	18	1,745
	視聴覚センター事業 (アスニーシネマ等)	29	41	5,766
	古典の日記念京都市平安京創生館	—	308	54,406
	合計	213	1,794	94,691

b 動画配信

事業名	講座数	再生回数(令和5年3月31日)
アスニー京都学講座 (京都市考古資料館文化財講演会)	1	802

c 広報誌等の発行及び友の会の運営等

- 「創造する市民」の発行（第117号1,600部発行）
- 生涯学習講座案内「まなびすと」の発行
- 友の会「京都まなびすと」の運営（会員635人）

d 施設利用状況

入館者数(人)	貸館利用回数(回)	貸館利用率(%)
304,569	5,739	39.1

イ 生涯学習総合センター山科（アスニー山科）の事業

a 講座・セミナー等

	事業名	講座数	事業回数	延べ受講者数
自主事業	アスニーアトリエやましな	77	448	3,988
受託事業	アスニー山科特別講演会 (学びのフォーラム山科代替事業)	24	24	2,041
	アスニー山科ムービー	12	12	862
	夏休み子ども教室	2	2	38
	合計	115	486	6,929

b 動画配信

事業名	講座数	再生回数 (令和4年3月31日)
やまタンの山科再発見	5	957
「学びのフォーラム」 「特別講演会」 「アスニー山科講演会」 インターネット講座	7	4,791

c 施設利用状況

入館者数 (人)	貸館利用回数 (回)	貸館利用率 (%)
98,058	2,675	40.8

ウ 図書館

(※) 移動図書館、こどもみらい館子育て図書館及びコミュニティプラザ深草図書館分を含む

	人数・回数	冊数
蔵書数 (内、電子書籍)	- (-)	1,968,256 冊 (3,768 冊)
登録者数	363,267 人	-
入館者数	3,284,680 人	-
個人貸出 (内、電子書籍)	2,270,943 人 (-)	6,994,912 冊 (12,474 冊)
団体貸出	4,695 回	29,987 冊
在宅貸出	2,534 回	5,238 冊
予約件数 (内、電子書籍)	- (-)	2,135,422 冊 (10,206 冊)
ブックメール運搬冊数	-	3,487,917 冊
参考業務件数	32,060 件	-
行事实施	468 行事 1,283 回 36,759 人	-

2 財務面

(1) 目標及び実績

目標 「効率的な事業運営費予算の執行」	
令和5年度の目標	<p>正規職員の少数精鋭化、司書資格を有する嘱託職員等や経験豊富な退職再雇用職員を積極的に活用し、効率的に配置することにより事業運営費の縮減に繋げる。</p> <p>また、自主事業による収益を確保するとともに、経費の精査なども行い、公益法人に認められた特定費用準備資金の積立てを活用することで事務のデジタル化を図り、更なる業務効率化を推進する。</p>
令和5年度の取組結果 (※)	

令和6年度の目標	<p>京都市の財政状況が厳しい中、引き続き財団においても事務の見直しや人件費の抑制に努めつつ、財団運営の安定化を図る。</p> <p>事務の見直しに当たっては、勤怠管理システムと給与システムの一体的な運用により、臨時職員を含めた全職員の勤怠管理や、給与支払い事務を連動させるなどデジタル化による事務の効率化を図る。</p> <p>人件費においても、人材確保が困難となる中嘱託職員の処遇改善を図る一方、財団退職再雇用職員の積極的な活用や、臨時職員の配置の見直し等により、効率的に執行する。</p> <p>また、自主事業により得られた収益等を特定費用準備金として、文書管理や庶務事務のオンライン化、パソコンの更新など、デジタル化に向けて積み立てることで、今後の業務改善に備える。</p>
----------	---

指標	自主事業における受講料収益						(単位：千円)	
目標と実績	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	実績(※)
		26,102		35,710	40,318		40,748	

指標	事務のデジタル化スケジュール							
目標と実績	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	実績(※)
		財務会計システム更新により所属での伝票作成業務の効率化を図る		会議や研修にオンラインを積極活用することで、資料費等経費の削減、職員の移動時間の短縮等を図った。実施回数(記録の残っているもののみ)：11回開催		人事給与システムの更新及び勤怠管理システムの導入により休暇申請等のデジタル化を図る		勤怠管理システムと給与システムを連携することで、給与計算を効率化し、事務の負担軽減を図る。

主要財務数値							(単位：千円)	
	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	予算	実績	予算	実績	予算	実績 (※)	予算	実績 (※)
経常収益	1,685,880	1,663,706	1,644,136	1,623,026	1,682,103		1,641,542	
経常費用	1,684,962	1,637,982	1,644,380	1,615,663	1,681,172		1,635,489	
当期経常増減額	918	25,724	△244	7,363	931		6,053	
当期正味財産増減額	118	25,013	△1,344	6,909	△769		4,553	
資産合計	-	764,076	-	720,171	-		-	
負債合計	-	616,740	-	565,926	-		-	
正味財産	-	147,335	-	154,244	-		-	
うち累積損益額	-	67,335	-	74,244	-		-	

(参考) 京都市からの補助金等

(単位：千円)

		R3 決算	R4 決算	R5 決算 (※)	R6 予算
委託料	生涯学習事業の実施 (アスニー、図書館)	1,609,325	1,558,930		1,568,930

3 組織面

(1) 目標及び実績

目標 「財団職員による自立した組織運営体制の推進」	
令和5年度の目標	司書資格を有する職員の割合を一定以上に保ち、再雇用職員の活用を進めることで、スキルやノウハウの継承を図り、より専門的な事業推進の維持・向上に繋げる。また、派遣職員の縮減とともに、財団固有職員の所属長配置をさらに促進させ、財団職員による安定した組織運営体制の整備を固める。
令和5年度の取組結果 (※)	
令和6年度の目標	市からの派遣職員の引き上げが進んできた中、司書資格を有する財団職員の管理職への登用をさらに進め、魅力ある図書館等、生涯学習施設の運営の中心的役割を担うことで、財団の自立した組織運営体制を構築する。 目標達成に向け、経験豊富な職員が持つスキルやノウハウの次世代への継承のため、OJT やテーマ別研修等の質を高め、職員の意識改革や人材育成にも力を入れる。 また、子どもの本コンシェルジュなどの専門知識を活かし、外部への講師派遣も積極的に行うなど、高い司書資格保有率を誇る財団ならではの事業を展開し、子育て支援や生涯学習のまちづくりに貢献する。

指標	財団職員の資格保有率 (司書)				(単位：%)			
目標と実績	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標	実績 (※)
	75	76	75	75	75		75	

指標	職員が講師を務める講座・研修等の実施回数						(単位：%)	
	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
目標と実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	実績(※)
		20	23	25	33	30		35

第3 令和5年度の経営評価（令和4年度の経営状況に対する評価）

1 所管局による評価

財務面	<p>市から委託された生涯学習事業や図書館事業などを実施する中、本市の厳しい財政状況を踏まえ、経験豊富な退職再雇用職員の活用、図書館の開館時間の変更に伴う臨時職員の勤務シフト見直しなど、職員配置の工夫を重ねることで、サービス水準を向上させつつ運営費の縮減に繋げている。また、自主事業の充実をはじめ安定した法人運営を持続するため、事業実施に必要な機器類の更新に向けた特定資産の保有に努めており、法人としての財務マネジメントが発揮できている。</p> <p>さらに、財団固有職員の課長職増員を行うことで、段階的に本市の派遣職員の削減を進めており、令和4年度は、前年度の11名から7名まで減少させた。</p> <p>今後も財団の補職者育成の状況等を踏まえながら、引き続き働き方改革の視点から業務の効率化を進めることで削減に努める必要がある。</p>
事業面	<p>令和5年2月の電子書籍サービス開始にあたり、司書資格を有する職員が中心となって選書を行い、ホームページ等を活用し積極的な広報も行った。また、図書館ホームページ更新、スマホ図書館カードの運用開始も奏功し、入館者は令和3年度比約290,000人増となった。また、「子どもの本コンシェルジュ」の育成・活躍など、子どもの読書活動の充実も含め市民のニーズや読書スタイルの変化に適応していることは、魅力ある図書館づくりに努めてきた成果として評価できる。</p> <p>生涯学習総合センターでは、年度途中から、ほぼすべての事業を再開し、来館者数は令和3年度比約52,000人増となり、コロナ前の約80%まで回復させた。市民の学習ニーズを踏まえ、大学・関係機関等と連携し、幅広い分野について魅力的かつ多様な生涯学習講座を企画している。</p> <p>また、講座の動画配信や、受講料のキャッシュレス化にも取り組み始めており、引き続き、利用者のニーズを踏まえた各種サービスの在り方を検討することで、インターネットサービスの拡充やリスキング教育にも幅広く取り組むことで、市民の多様な生涯学習熱を支え、更なる自律化を図りながら本市生涯学習の振興を進める必要がある。</p>

2 外郭団体総合調整会議による評価

<p>令和4年度は、固有職員の育成の取組の成果として、京都市からの派遣職員を4名減らしており、評価できる。今後も、固有職員による安定した団体運営に向けて、人材育成に努め、京都市からの派遣職員を削減し、効率的な組織体制を構築いただきたい。</p> <p>また、コロナ禍において、市民ニーズのあり方が変容する中、ホームページ上での動画配信や参加申込み、受講料のキャッシュレス化の導入等、利用者目線での改善を実施されている。効率的な事業執行に努める中でも、引き続き利用者目線で改善に取り組み、より多くの市民へ学習機会を提供できるように努めていただきたい。</p>
--